

平成 24 年度 青葉区区民意識調査結果 — 概要版 —

青葉区では、平成 24 年度区政運営方針として
「住みつづけたいまち『青葉』」を基本目標に掲げ、
その目標達成に向けた施策として

子育てを楽しめるまち
安心していきいきと暮らせるまち
地域の思いをかたちにできるまち
大切な環境を守り育むまち

を推進しています。

平成 24 年度青葉区区民意識調査で得られた回答をもとに、この 4 つの施策に関する区民の皆さまの生活意識や、区政に対する満足度、要望等の集計報告を行います。

平成 24 年度青葉区区民意識調査 調査概要

調査の目的 青葉区にお住まいの皆さまの生活意識や区政に対する満足度、要望等を的確に把握し、今後の区政運営に活かしていくことを目的とする。

調査対象 青葉区内在住の 16 歳以上の男女 3,000 人（うち外国人 60 人）

抽出方法 住民基本台帳及び外国人登録原票からの無作為抽出

調査方法 郵送によるアンケート方式

回答率 51.3%（有効回答者数 1,529 人）

調査期間 平成 24 年 5 月 31 日～6 月 18 日

設問分野 生活環境、災害対策、防犯、子育て、若者の就労、介護予防、環境、健康、地域活動・地域社会、定住意向 等

図表の見方 図（グラフ）の中で使用されているアルファベットの意味は次のとおり。

MA : 複数回答（マルチアンサー）の設問

N : その設問に対する回答者数

平成24年度 青葉区区民意識調査

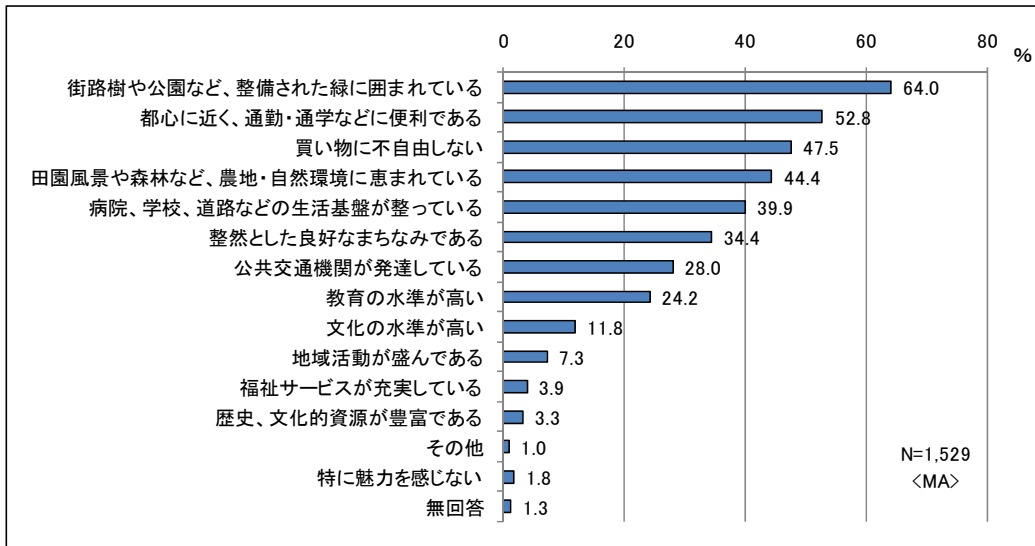
目 次

「住みつづけたいまち『青葉』」	2
青葉区の魅力	
日々の生活の中で、不足もしくは不便と思うこと	
身近な住環境で心配なこと	
青葉区への定住意向	
現在の住まいの地域を選んだ理由	
子育てを楽しめるまち	
子育て中の家庭を支援するために必要なこと	
子どもたちが健やかに成長するために、地域が担う役割として重要なこと	
子育て中の不安、不満	
安心していきいきと暮らせるまち	8
首都圏で平日の昼間に大地震が起きた場合、特に不安に思うこと	
家庭で行っている災害対策	
地域防災拠点、地域医療救護拠点、広域避難場所の認知度	
犯罪や事故など安全について心配なこと	
犯罪を未然に防ぐため必要な取組	
青葉区が長寿のまちである要因	
健康づくりのために取り組んでいること	
喫煙の有無	
大腸がん、子宮がん、乳がん検診の受診状況と、検診を受けなかった理由	
地域の思いをかたちにできるまち	13
参加してみたい（している）地域活動	
地域が抱える課題や問題	
大切な環境を守り育むまち	14
環境を守るための取り組み	
燃やすごみを削減するために行っていること	
区内の緑地や農地などの保全について	

「住みつづけたいまち『青葉』」

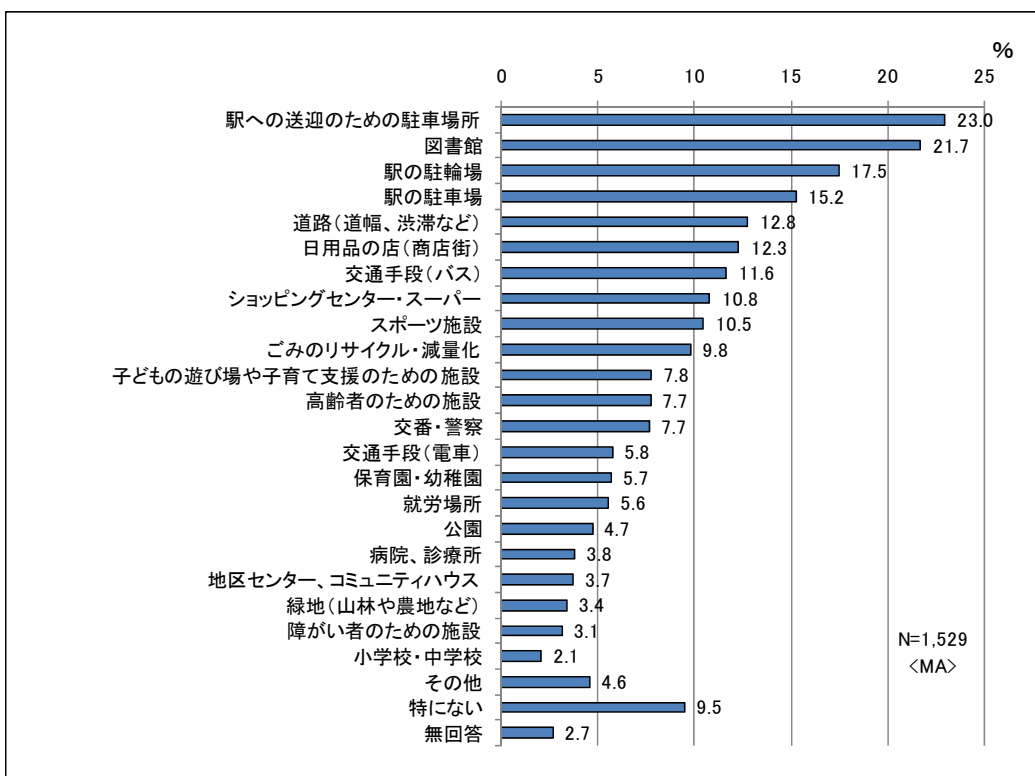
青葉区の魅力

「街路樹や公園など、整備された緑に囲まれている」を6割強、「都心に近く、通勤・通学などに便利である」が半数強の人が挙げている。**良好な自然環境と利便性の良さが共存している点が評価**されている。



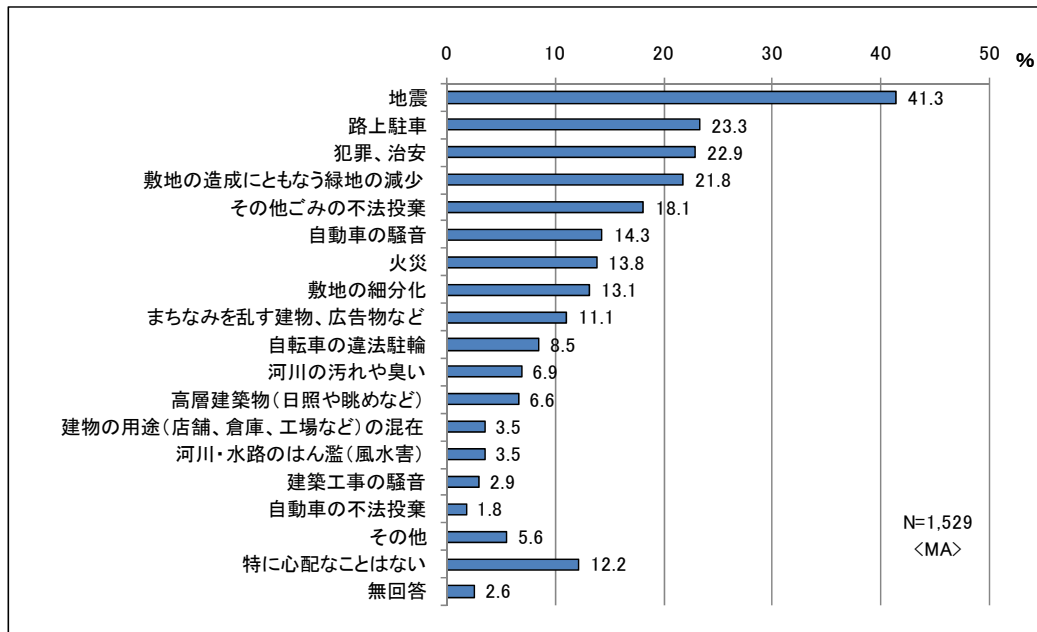
日々の生活の中で、不足もしくは不便と思うこと

「駅への送迎のための駐車場」が2割強で最も多く、以下「図書館」「駅の駐輪場」「駅の駐車場」と続いており、**駐輪・駐車場の不足・不便**を指摘する意見が多い。

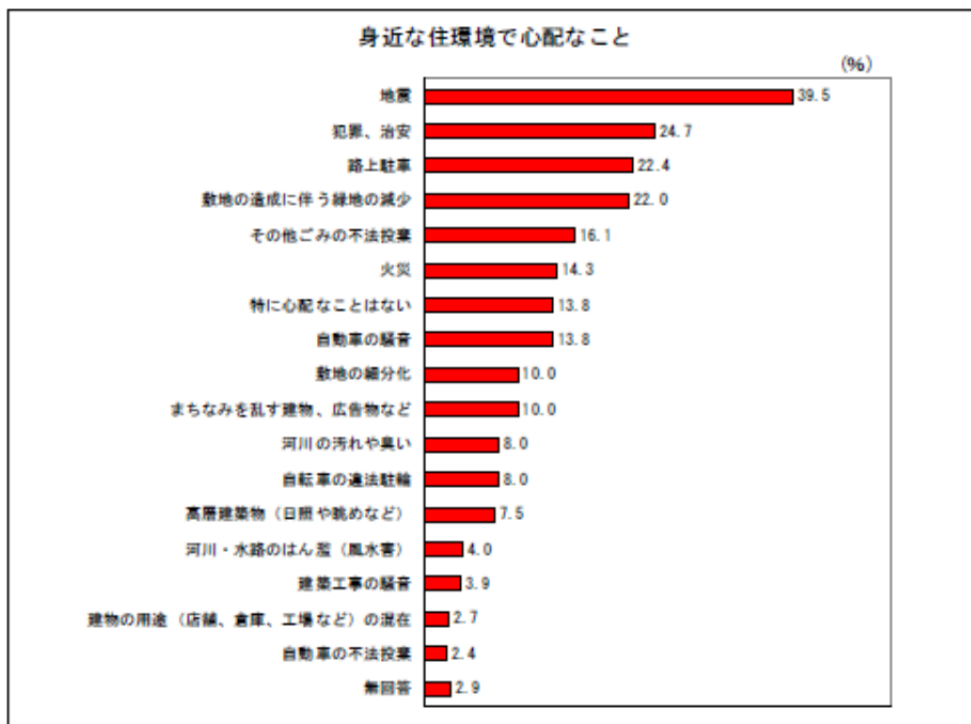


身近な住環境で心配なこと

昨年度調査では東日本大震災の影響を大きく受けて「地震」が大きく増加したが、今年度も僅かながら昨年よりさらに増加して**4割を超えている**。以下「路上駐車」「犯罪、治安」「敷地の造成にともなう緑地の減少」を2割以上の人が挙げている。

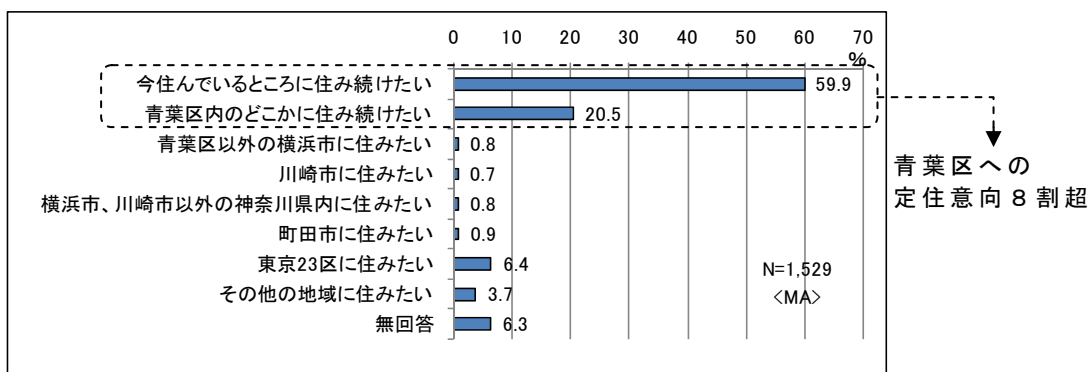


< 参考 平成 23 年度調査結果との比較 >

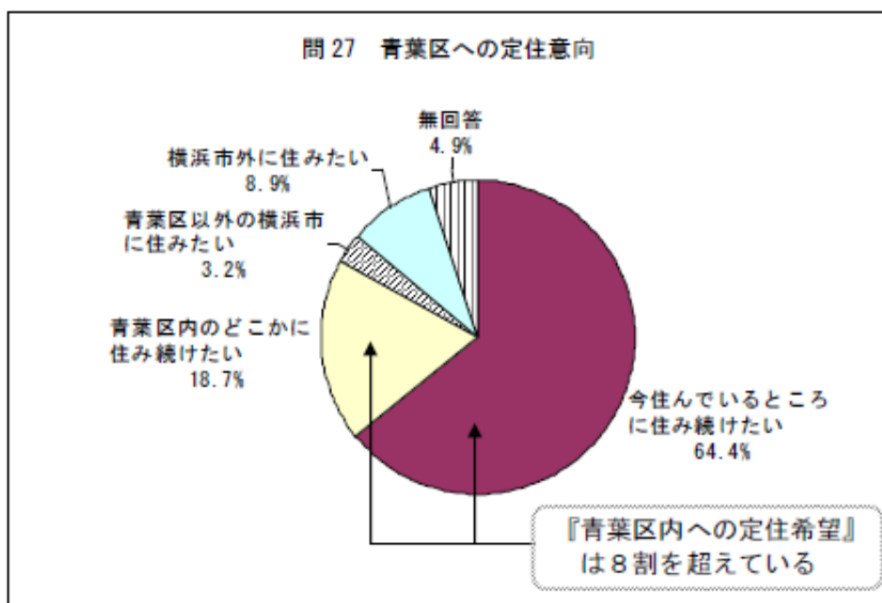


青葉区への定住意向

「今住んでいるところに住み続けたい」が約6割で飛びぬけて多く、次いで「青葉区内のどこかに住み続けたい」が約2割で、これらを合わせると**青葉区内への定住意向は8割を超える**。平成23年度調査と比較すると僅かに減少しているが、定住意向が依然として高い水準にあることには変わりない。

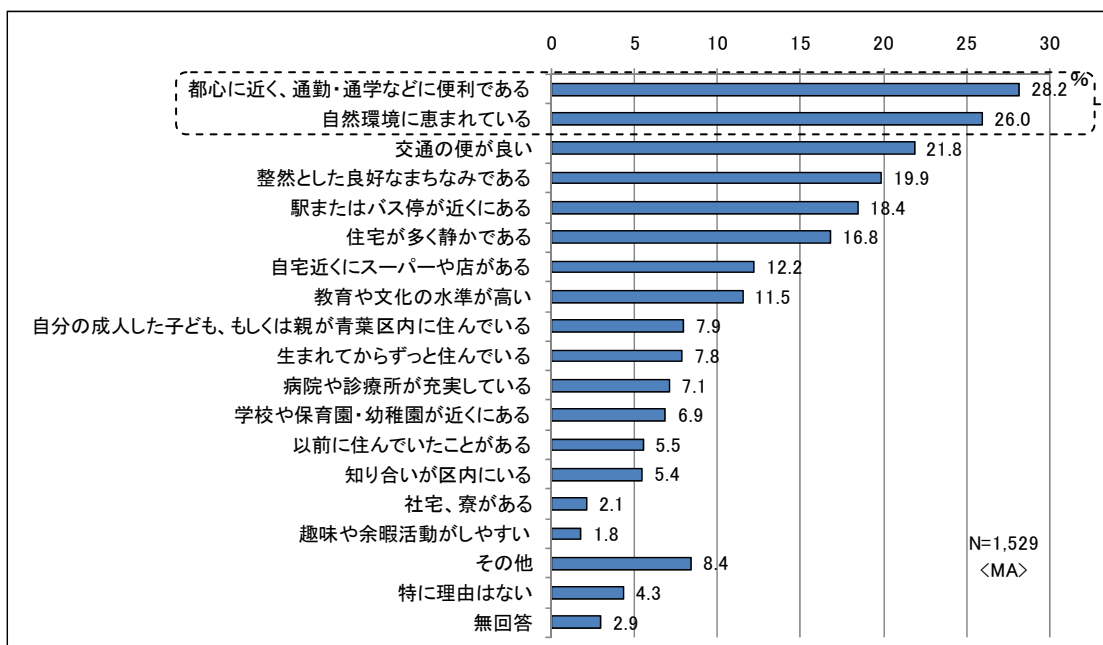


< 参考 平成23年度調査結果との比較 >



現在の住まいの地域を選んだ理由

「都心に近く、通勤・通学などに便利である」が3割弱で最も多く、僅差で「自然環境に恵まれている」が続いている。**良好な住環境と利便性の高さが評価**されており、「青葉区の魅力」と同様の結果となっている。



良好な住環境と利便性の高さ

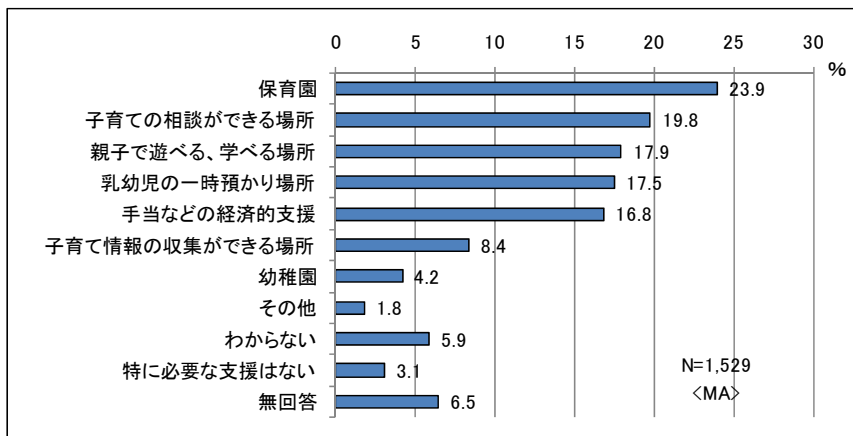
◆「青葉区の魅力」上位5位◆

街路樹や公園など、整備された緑に囲まれている
 都心に近く、通勤・通学などに便利である
 買い物に不自由しない
 田園風景や森林など、農地・自然環境に恵まれている
 病院、学校、道路などの生活基盤が整っている

子育てを楽しめるまち

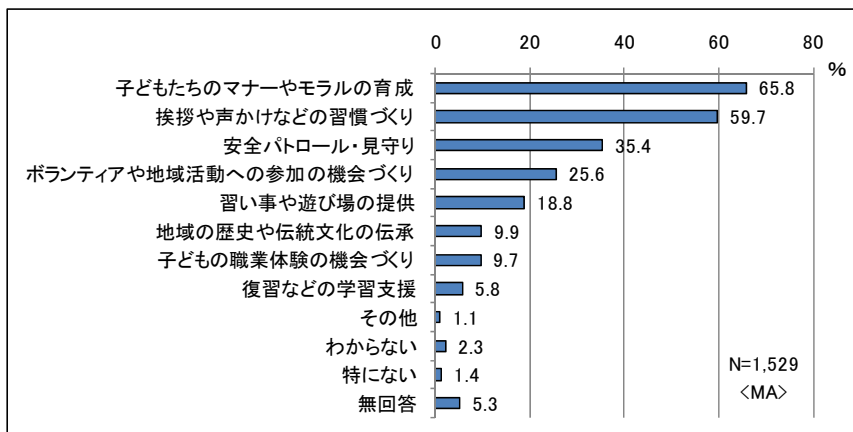
子育て中の家庭を支援するために必要なこと

「保育園」が2割強で最も多く、次いで「子育ての相談ができる場所」「親子で遊べる、学べる場所」「乳幼児の一時預かり場所」「手当などの経済的支援」が2割弱で続く。



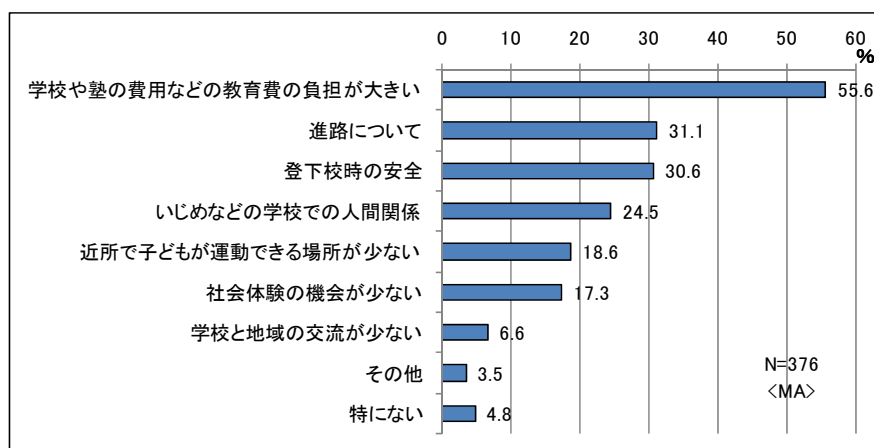
子どもたちが健やかに成長するために、地域が担う役割として重要なこと

「子どもたちのマナーやモラルの育成」「挨拶や声かけなどの習慣づくり」の2点に回答が集中している。「安全パトロール・見守り」「ボランティアや地域活動への参加の機会づくり」にも2割以上の回答が得られている。



子育て中の不安、不満

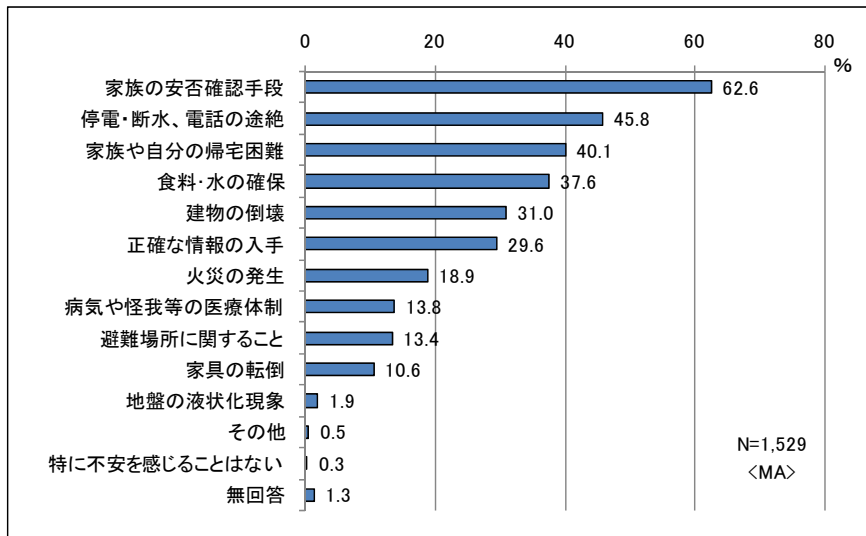
「学校や塾の費用などの教育費の負担が大きい」が突出して多く、**経済的負担を挙げる声が過半数**を占める。「進路について」「登下校時の安全」を共に3割程度が挙げている。



安心していきいきと暮らせるまち

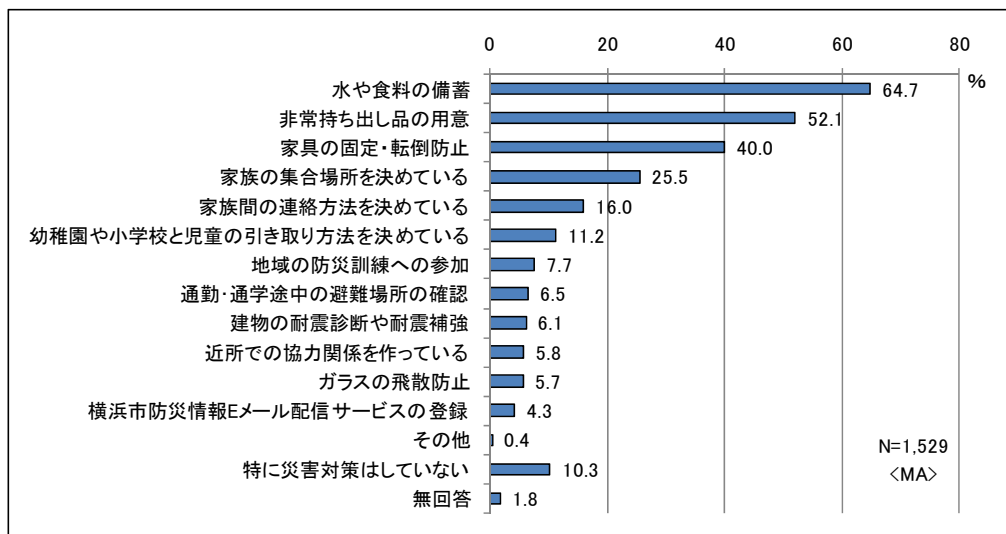
首都圏で平日の昼間に大地震が起きた場合、特に不安に思うこと

「家族の安否確認手段」が最も多く、6割以上の方が不安だとしている。次いで「停電・断水、電話の途絶」が半数弱、「家族や自分の帰宅困難」「食料・水の確保」「建物の倒壊」を3割以上の方が挙げている。



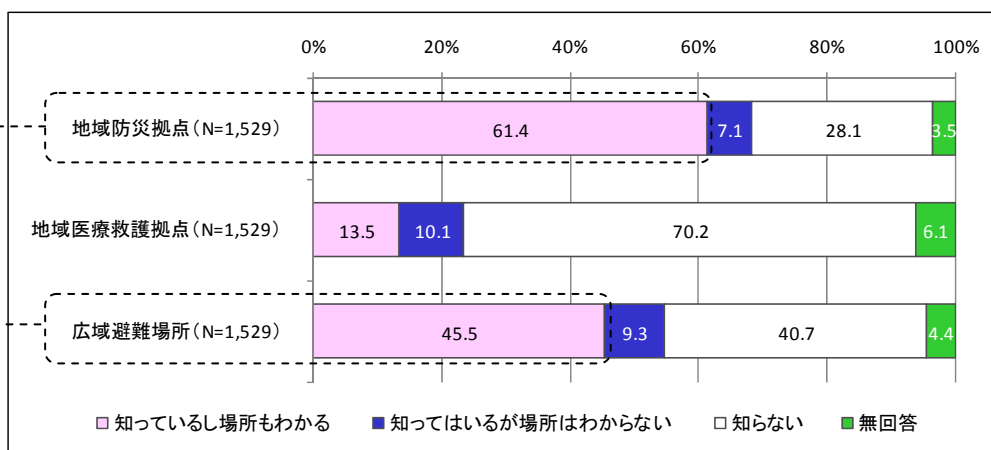
家庭で行っている災害対策

「水や食料の備蓄」が最も多く、6割以上の方が行っている。次いで「非常持ち出し品の用意」を半数以上、「家具の固定・転倒防止」を4割が挙げている。

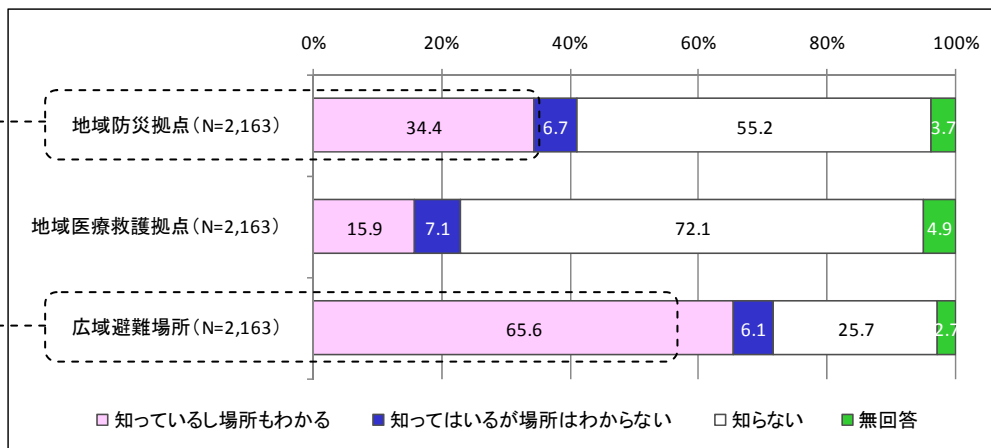


地域防災拠点、地域医療救護拠点、広域避難場所の認知度

地域防災拠点は「知っているし場所もわかる」が6割強で、この3つの中では最も認知度が高いが、「知らない」も3割弱に達している。地域医療救護拠点は「知らない」が約7割に達し、認知度は低い。広域避難場所は「知っているし場所もわかる」「知らない」がともに4割強でほぼ拮抗している。平成23年度横浜市民意識調査と比較すると、地域医療救護拠点の認知度に大きな差はないが、地域防災拠点の認知度が高く、広域避難場所は低くなっている。



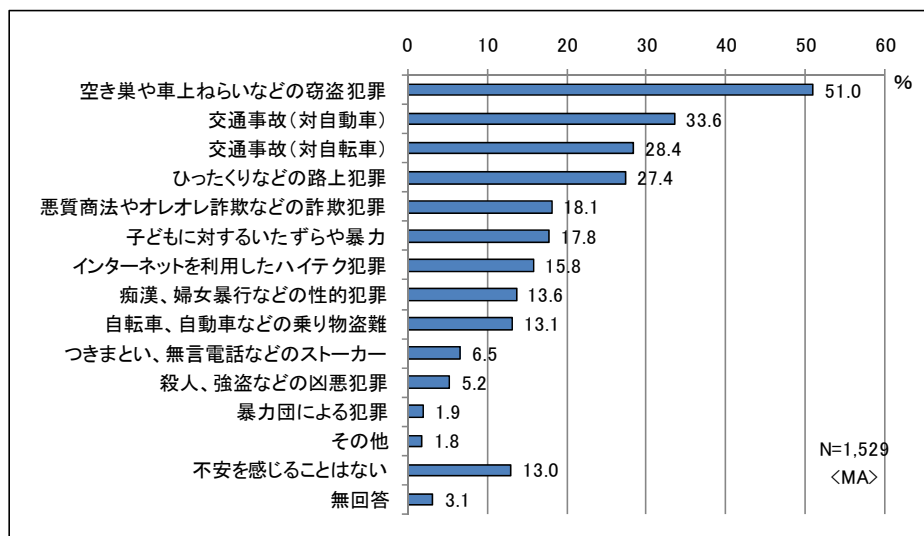
< 参考 平成23年度横浜市民意識調査との比較 >



横浜市民意識調査の結果と比べると、地域防災拠点の認知度が27ポイント高く、広域避難場所の認知度は20ポイント低くなっている。

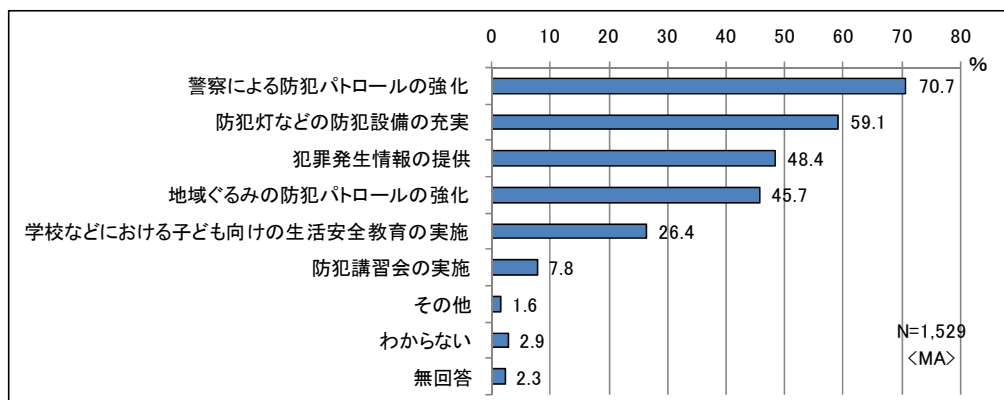
犯罪や事故など安全について心配なこと

「空き巣や車上ねらいなどの窃盗犯罪」が最も多く、半数以上の人不安だとしている。次いで「交通事故（対自動車）」「交通事故（対自転車）」「ひったくりなどの路上犯罪」が3割前後で続く。一方「不安を感じることはない」は1割強。



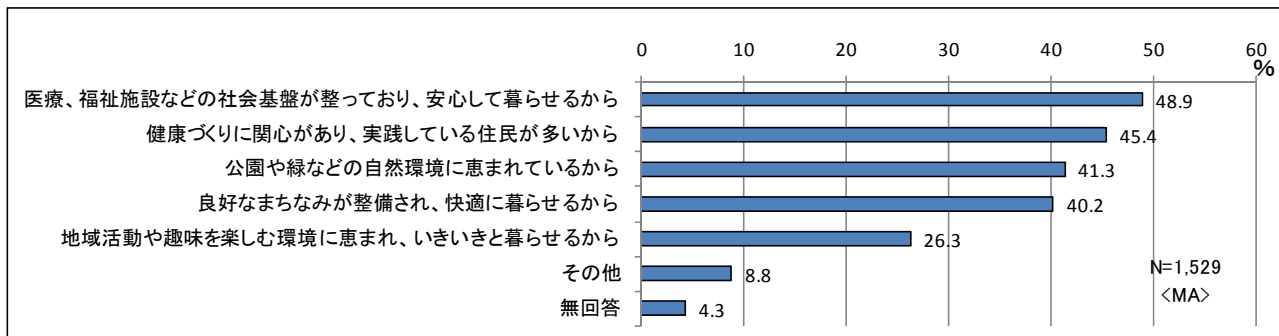
犯罪を未然に防ぐため必要な取組

「警察による防犯パトロールの強化」を約7割の人が挙げている。以下「防犯灯などの防犯設備の充実」「犯罪発生情報の提供」「地域ぐるみの防犯パトロールの強化」と続く。



青葉区が長寿のまちである要因

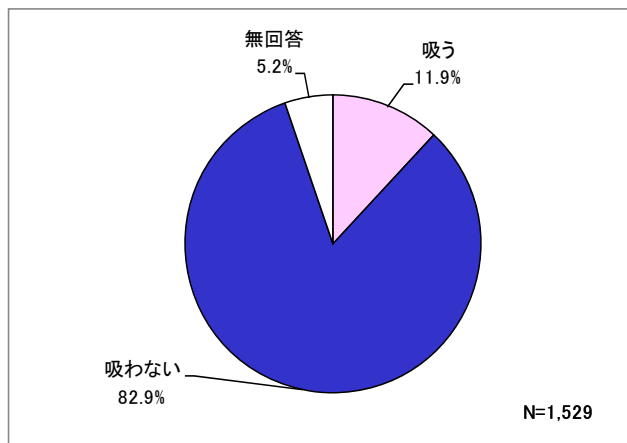
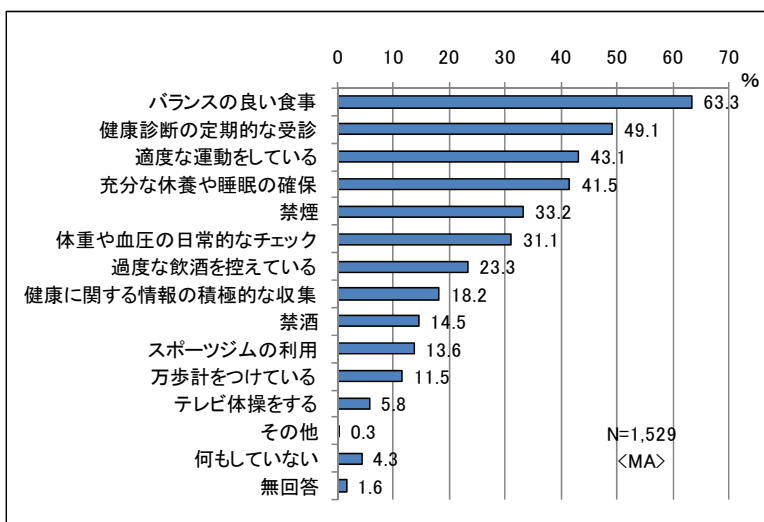
「医療、福祉施設などの社会基盤が整っており、安心して暮らせるから」を半数近くの人が挙げているが、回答は分散した。



健康づくりのために取り組んでいること

喫煙の有無

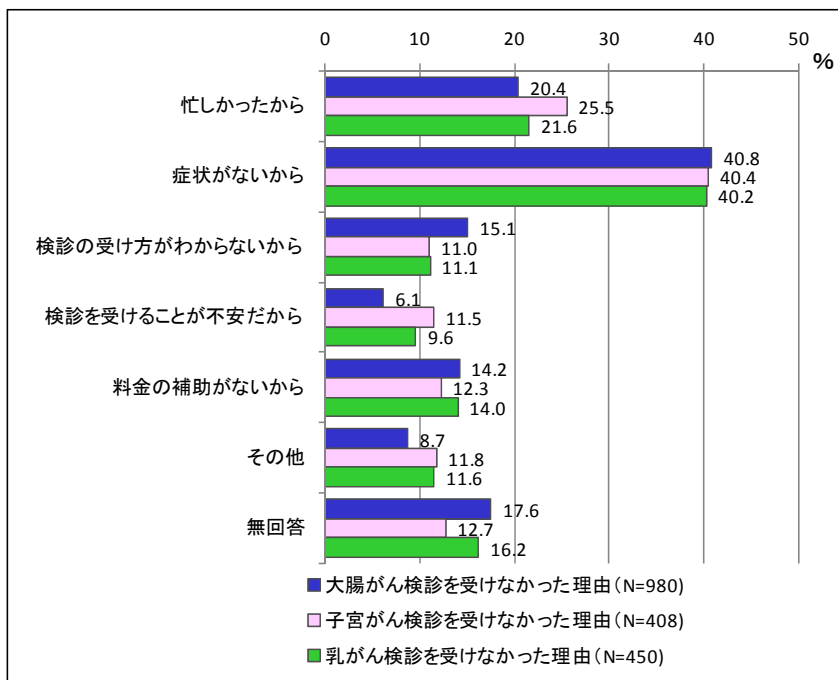
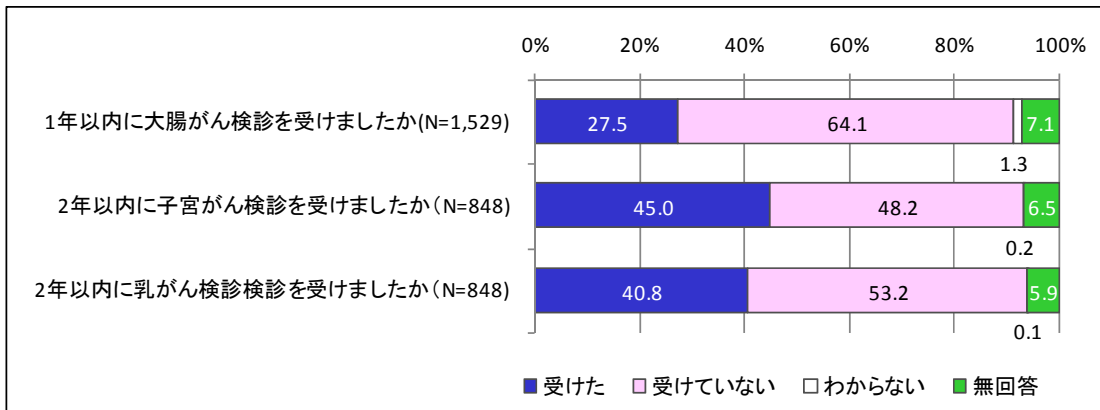
「バランスの良い食事」が最も多く6割強。次いで「健康診断の定期的な受診」が5割弱である。「何もしていない」は僅かで、健康づくりについて何らかの取り組みをしている人が多いのがわかる。喫煙については「吸わない」が8割強を占める。



大腸がん、子宮がん、乳がん検診の受診状況と、検診を受けなかった理由

いずれも「受けていない」が「受けた」より高い割合となっている。特に大腸がんについては「受けていない」の方が「受けた」を大きく上回っており、受診率が低い。

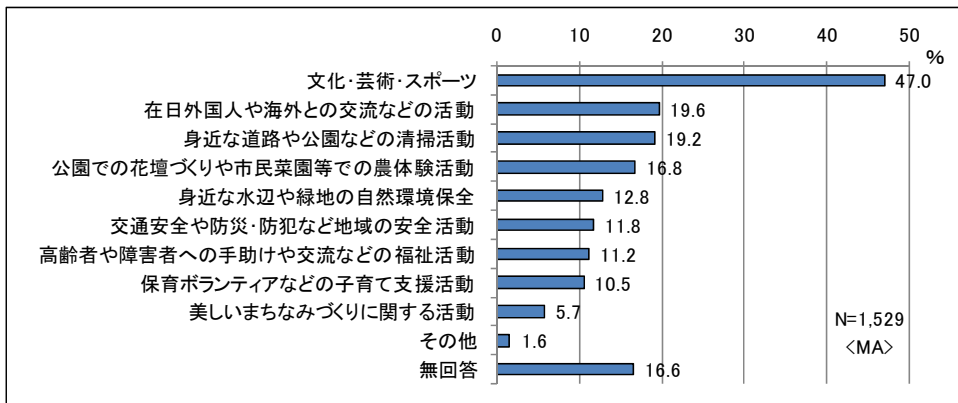
受けなかった理由は、いずれも**最も多いのは「症状がなかったから」**で約4割の人が挙げており、次いで「忙しかったから」が2割強となっている。



地域の思いをかたちにできるまち

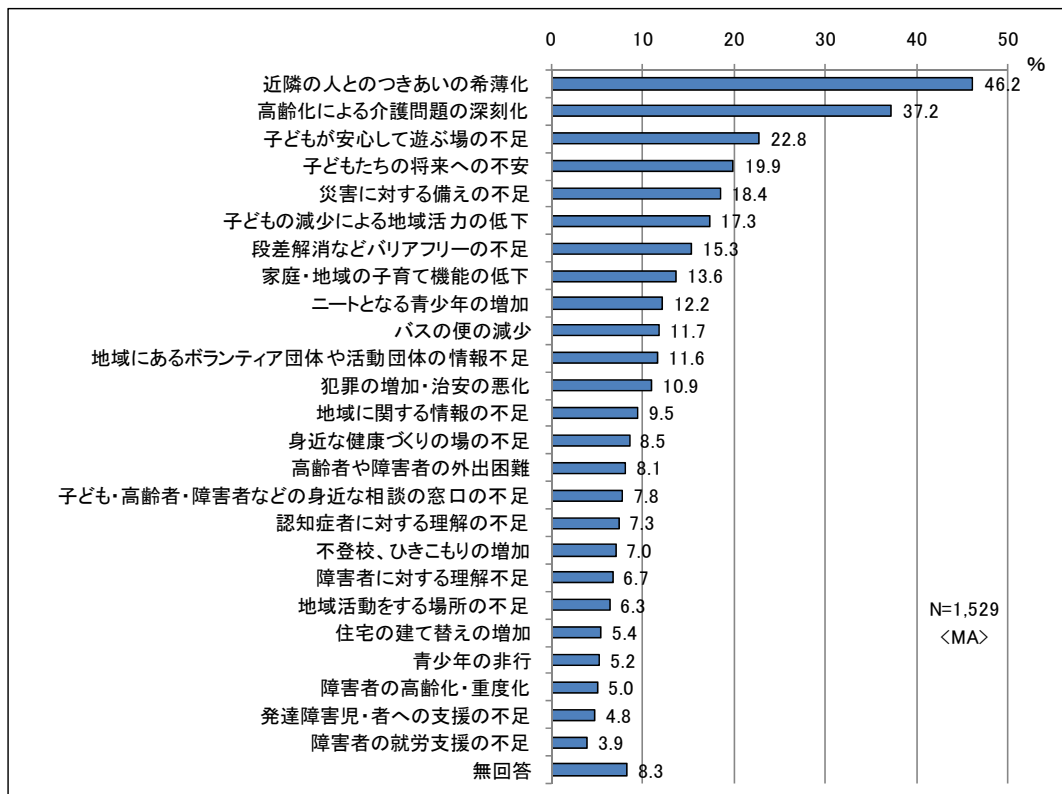
参加してみたい（している）地域活動

「文化・芸術・スポーツ」が突出して多く、半数近くの人が挙げている。次いで「在日外国人や海外との交流などの活動」「身近な道路や公園などの清掃活動」がそれぞれ2割弱。



地域が抱える課題や問題

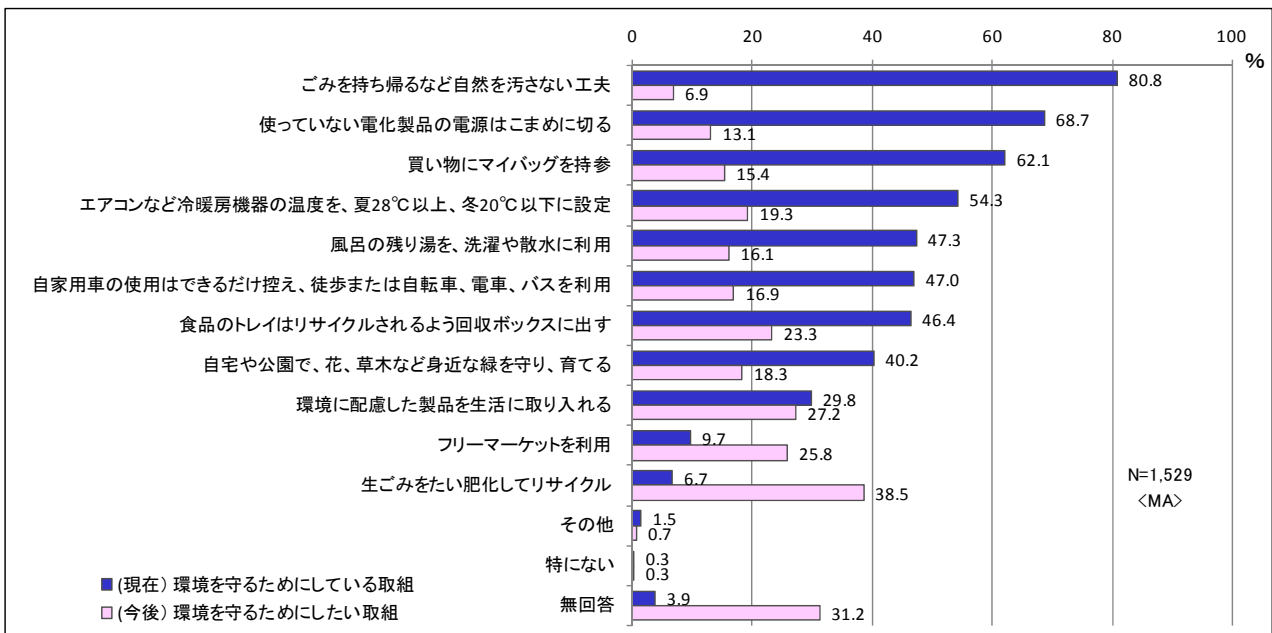
「近隣の人とのつきあいの希薄化」を半数弱、「高齢化による介護問題の深刻化」を4割弱が挙げている。



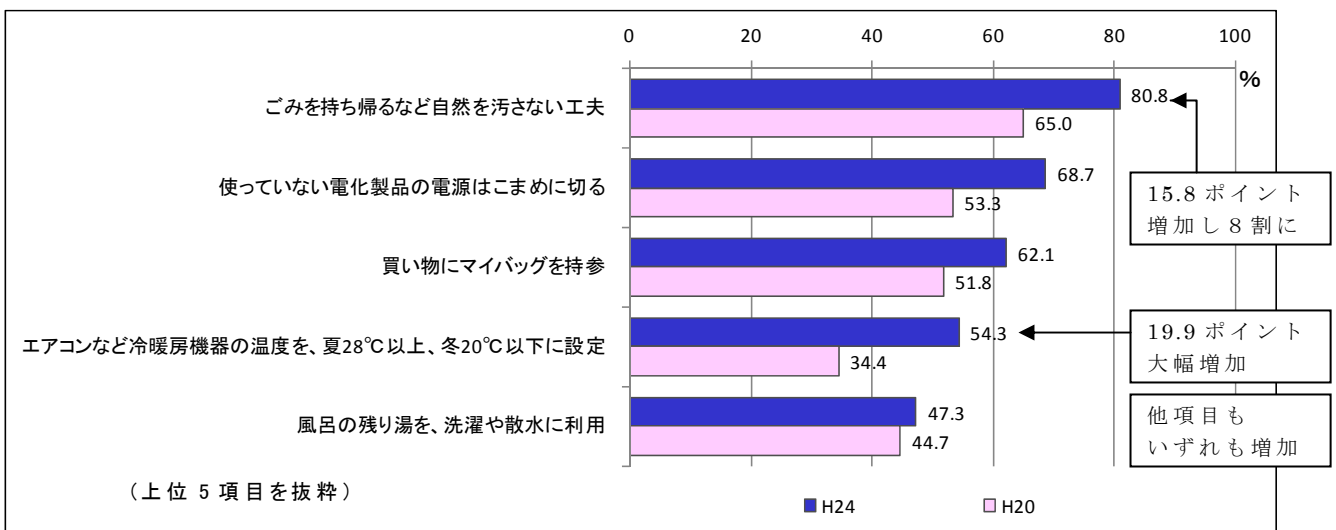
大切な環境を守り育むまち

環境を守るための取り組み

現在取り組んでいることとしては「ごみを持ち帰るなど自然を汚さない工夫」が最も多く、全体の8割以上の人に取り組んでいる。一方、今後取り組みたいこととしては「生ごみをたい肥化してリサイクル」が最も多く、現在の取り組み状況において下位にあるものが上位に上がっている。上位5項目について平成20年度調査と比較すると、いずれも平成20年度の数値を上回っており、**環境に対する意識の向上**が伺える。

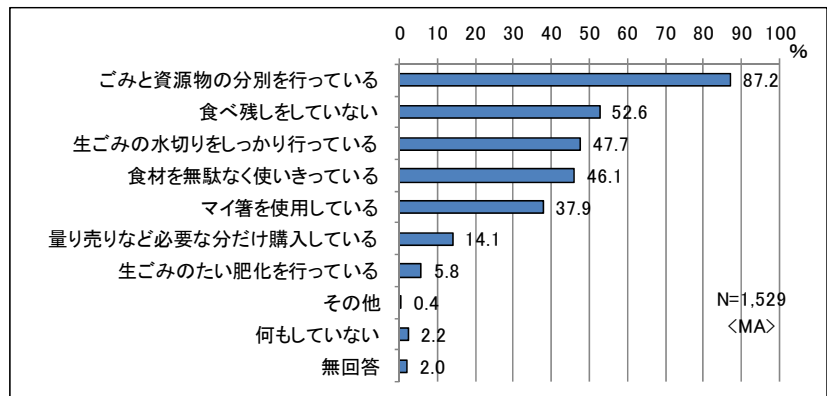


<参考 平成20年度調査結果との比較>



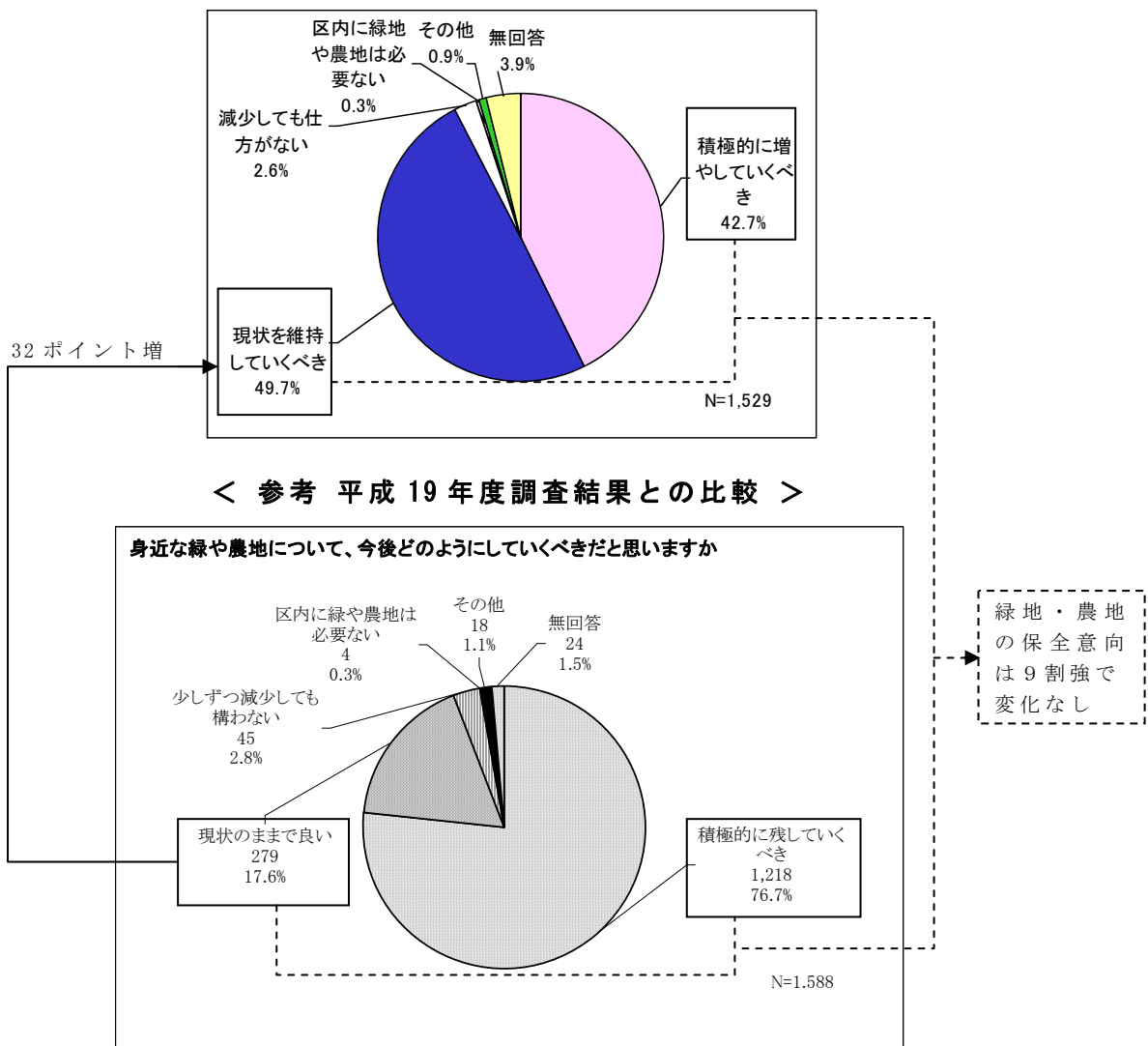
燃やすごみを削減するために行っていること

「ごみと資源物の分別を行っている」が突出して多く、9割近くの人が挙げている。以下「食べ残しをしていない」が5割強、「生ごみの水切りをしっかりと行っている」「食材を無駄なく使いきっている」が5割弱となっている。



区内の緑地や農地などの保全について

「現状を維持していくべき」が約半数、「積極的に増やしていくべき」も4割以上を占め、これらを合わせると9割以上の方が緑地や農地の保全に前向きな意見を持っている。なお平成19年度調査と比較すると、「積極的に残していくべき」は34ポイント減少しているが、「現状のままでよい」が32ポイント増加している。



平成 24 年度 青葉区区民意識調査 調査結果 報告書 概要版

発行日 平成 24 年 9 月

発行 青葉区 総務部 区政推進課 企画調整係

〒225-0024 横浜市青葉区市ケ尾町 31 番地 4

TEL 045 (978) 2217

FAX 045 (978) 2410